

「やればできる」という思いを感じ、自己有能感や達成感を高めることのできる授業

活動名「紙すき」

日時	平成24年2月17日(金) 2校時		
対象	中学部重複障害学級	指導形態	自立活動
場所	中学部1・3年5組教室	指導者	彌勒, 京田, 成川

生徒の実態

1 対象生徒の実態

3人は中学部の重複障害学級の自立活動を主とする教育課程で、医療的ケア対象生徒である。それぞれの実態は次の通りである。

	A: 1年女	B: 2年男	C: 3年男
健康面	← 医療的ケア対象生徒 →		
	胃ろう 左凸側わん	吸引(必要に応じて) 非対称性緊張性頸反射	胃ろう 円背
健康面	← 発作あり →		
	疲労で誘発(座薬使用) 痰が多い	学校では少ない 夏場は緊張が強い	学校でも多い(要安静) 覚せいと睡眠のリズムが不安定
感覚面	・不快なときに手足を動かす。 ・顔周りを中心に過敏。	・視覚より聴覚で情報収集する。 ・暗いと緊張が強まり、不快を示す。	・好きなものは追視する。 ・顔, 首, 足裏, 手は過敏。
意思伝達面	・歯ぎしりと声で不快を伝える。 ・呼名されると目や顔を動かして見ようとする。 ・状況を表情や目で訴えることが多い。	・全身の突っ張りと言で不快を伝える。 ・呼び掛けると、時間を掛けながら顔を上げて、口を動かす。	・排せつの確認の言葉掛けをすると視線で伝える。 ・好きなこと(鈴の音, 振動等)をしてもらおうと笑顔になる。
備考	・座位保持車いす 短下肢装具 ・週3日登校	・座位保持車いす	・座位保持車いす 短下肢装具 立位台

2 長期目標と課題

年度当初に作成する自立活動の指導計画の長期目標は次の通りである。

	A	B	C
長期目標	・体調を保ちながら、学校生活のリズムを身に付けることができる。 ・快の意思表示を発声や表情, 身振り等で伝えることができる。 ・様々な姿勢を経験し、体の変形を防止するように努める。	・教師とのかかわりの中で心の安定を保ち、言葉掛けだけでも緊張を解く方法を身に付ける。 ・多くの人とのかかわりや語り掛けの中で、反応したり意思を表出したりすることができる。	・覚せいと睡眠のリズムを安定させ、生活リズムの確立を図る。 ・日常生活に必要な姿勢保持や基本動作, 筋力維持及び強化に努める。 ・発声や身振り等のコミュニケーションに必要な基礎的な能力を身に付ける。

生徒の実態や各担任の作成した自立活動の長期目標を基に作成した課題は次の通りである。

	A	B	C
健康面	・痰が多いので、排痰をしながらの学習活動を行うこと。	・安定した心理状態で活動に臨むこと。	・日々の健康状態に配慮しながら覚せいして活動する時間を作ること。
感覚面	・教師が手を添えて活動することを受け入れていくこと。	・手首や肩周りの緊張を緩めること。	・手指への刺激の過敏な反応を緩和させながら、教師と一緒に活動の中で握る等の動きを獲得していくこと。
意思伝達面	・意思表示を様々な表情や身振りで表出すること。	・教師の指示に対して手指を動かすこと。	・言葉掛けに対して視線を合わせること。

指導方針

自立活動を主とした教育課程の本生徒たちは、自立活動が1週あたり7.2時間(8コマ)設定されている。自立活動は個々の課題から目標を設定する取組であるため、中学部でも、個々の生徒の課題から遊具を使ったり感覚刺激を楽しんだりすることを目的で行う活動と作業的内容を行う活動の二つを集団で実施している。

対象生徒の3人は、健康に配慮を要する生徒で、手や足、顔等への刺激への過敏も見られる。このことは、感覚体験活動を十分行えていないことが考えられる。しかし、学校生活の中で、教師、あるいは友達と一緒に活動するときは、手で触れ合う場面は多い。卒業後の生活を考えると、福祉施設を利用すれば、介助のとき以外でもレクリエーションや制作活動において手を添え一緒に活動に参加していくことが予想され、手を使つての活動やコミュニケーションを広げる場面は多い。卒業後も人とのかかわりをたくさんもち、豊かな生活を送るためには、感覚刺激に対する過敏を軽減し、手指を使った様々な活動を多く経験することが求められる。

本授業の作業的内容を行う活動では、手指を使った活動を四つ(染め物、粘土を使った活動、紙すき、ステンシル)行う。四つの活動の内容は、「感覚刺激活動」「手指の動きを拡大する活動」の2本柱で設定した(5 指導計画を参照)。その中でも、まず感覚刺激の体験をたくさん積んでほしいので、活動内容は「感覚刺激活動」に重点をおいている。「染め物」では、直接手で触ったり香りを楽しんだりするためにコーヒーを使用して、染色活動を行った。「粘土を使った活動」では当初、陶芸用の粘土を使用する予定であったが、もっと柔らかい感触から始めたいということで、小麦粉を使用し、水を加えて変化していく感触を体感することができた。本時での「紙すき」では、水(湯)を使用するので、冷えやすい手の末端部を温める感覚から始めて、紙を混ぜたときの感触や紙以外(羊毛)を石けん水で混ぜたときの感触といった、同じ水(湯)を介した感覚刺激でも素材の違いを感じ取り、それを表情に表したり活動を受け入れたりできるような反応を期待している。このように、感覚刺激から始めた活動を積むことで感覚刺激の過敏を軽減し、他の人と一緒に手を動かすことを受け入れ、いずれは自らの力で手指を動かすことができるようになってほしいと期待している。

指導目標と活動内容

指導目標	活動内容
(1) 手指の感覚過敏を軽減できるようにする。	○ 感覚刺激の体験を積む。 <ul style="list-style-type: none"> 水やお湯の温度差を体験する。 固形物(粘土等)の感触を味わう。 直接手に触れて感じる。 [小麦粉のさらさら感, 紙すきのどろどろ感, 指絵の具等]
(2) 教師と一緒に手を使う活動を受け入れることができるようにする。	○ 上肢を中心に脱感作をする。 <ul style="list-style-type: none"> 肩周りのほぐしをする。 前腕の伸ばしをする。 指, 手のひらのマッサージをする。
(3) 少しでも自ら手指を動かすことができるようにする。	○ 五感を刺激する。 <ul style="list-style-type: none"> 香りをかぐ。 手指のマッサージ。 直接手で触れてみる。
(4) 活動によって受けた刺激に対して気持ちを表出できるようにする。	
(5) 同じ空間で教師や友達と一緒に活動することで、集団の雰囲気やコミュニケーションの拡大を図る。	○ (1)～(4)の指導内容全体を通して行う。

指導上の留意点

- 発作の多い生徒については、生活リズムが不安定で登校後も覚醒状態が低いことが多いので、活動の前に十分に体調を観察した上で、活動への参加の仕方を工夫する。
- 感覚刺激活動の体験を積み重ねて、活動を受け入れていくことや自分の気持ちを表現することができるように教師が意味付けの言葉掛けをする。
- 活動に対する生徒の反応を見逃さないように観察する。また、周りの教師も言葉掛けに反応する等してコミュニケーションに参加する。
- 一つの指導内容に対する反応を引き出すために、言葉掛けや活動をゆっくりと行い、じっくりと観察する。
- 活動内容は「感覚刺激活動」と「手指の動きを拡大する活動」を設定する。「感覚刺激活動」に重点をおき、生徒の活動回数や反応の様子を見て「手指の動きを拡大する活動」へ移行する。
- 大きな発作を起こしたら、隣の部屋へ移動し、安静にする。他の生徒は、活動を続ける。

指導計画

活動名「紙すき」 1～2月 全12時間 (本時8/12)

【感覚刺激活動】

- (1) 水やお湯の感触を感じる。
- (2) 入浴剤の香りを楽しむ。
- (3) 湿ったペーパーボールを握る。
- (4) 液体につけて溶けていく感触を感じる。
- (5) 紙が溶けたどろどろ液の感触を感じる。
- (6) 紙以外の感触(ぬるぬる感等)を感じる。

【手指の動きを拡大する活動】

- (1) ペーパーボールを液体の中で溶かすために手を動かす。(教師との動きを受け入れる。自らの動きを引き出す。)
- (2) 紙すきや羊毛フェルトの成型をする。(手のひら、指を使って教師との動きを受け入れる。)
- (3) 水を切った紙すきの素を手で動かして伸ばす。
- (4) タオルで水切りをする。(教師と一緒に上から押す。)

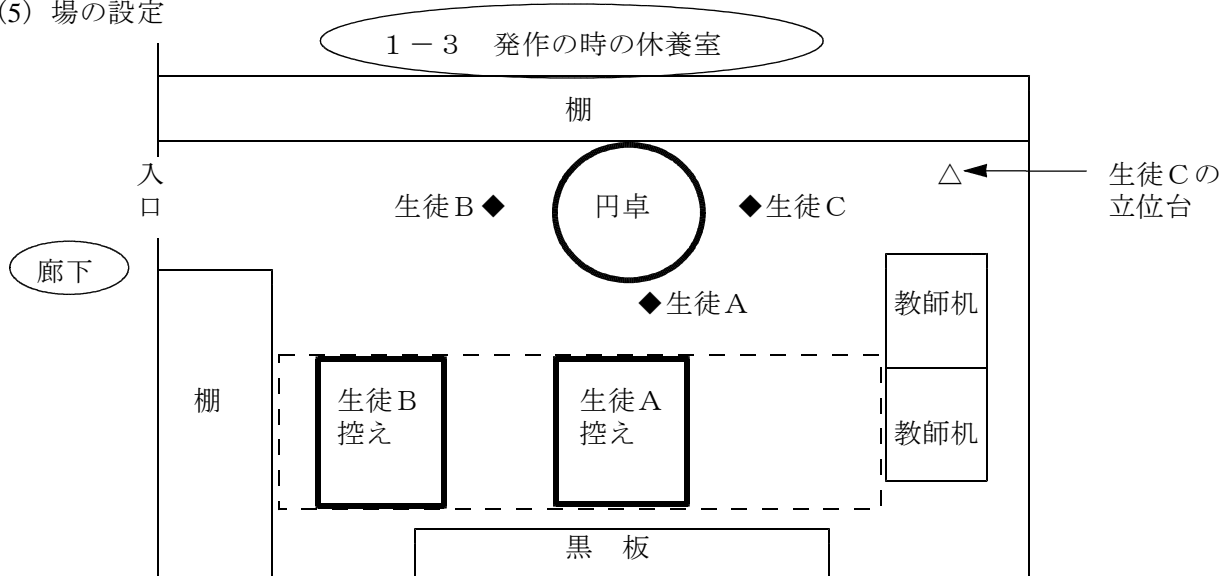
【感覚刺激活動】

- (1) アイロンで伸ばしたときの温かさや蒸気に触れる。

本時の活動

(1)～(4)は別紙

(5) 場の設定



6 本時の活動

(1) 目標と教師のかかわり方

	目標	身に付けさせたい力	教師のかかわり方	自立活動の区分
A	<ul style="list-style-type: none"> 体幹をしっかり保持した姿勢で活動に取り組むことで、手や指を動かすことができる。 	V-4 : 基本的な身体機能	<ul style="list-style-type: none"> 座位をとることで覚せいを促し、目覚めた状態で活動を始めるようにする。 教師と一緒に手指を動かすことから始め、徐々に物に対して自由に手を動かすように促す。 手から伝わる感触や手指の動きに対して言葉を掛けて、様々な表情を引き出すようにする。 手指の動きに対して賞賛や意味付けの言葉を掛けて、もっとやりたい気持ちや行動を引き出す。 	1-(1)生活のリズムや生活習慣の形成に関すること 3-(1)他者とのかかわりの基礎に関すること、 5-(1)姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること 6-(1)コミュニケーションの基礎能力に関すること
	<ul style="list-style-type: none"> 感覚を刺激する活動を繰り返し行うことで、感じていることを表現することができる。 	I-3 : 意思表示・伝達		
B	<ul style="list-style-type: none"> 環境を整え、安定した座位を保つことで、手指を動かすことができる。 五感を刺激する活動を通して、感じたことを表現することができる。 	V-4 : 基本的な身体機能 I-3 : 意思表示・伝達、 V-1 : 前学習段階	<ul style="list-style-type: none"> 体温調節や排せつの確認を適宜行うことで、安定した座位を確保し、活動しやすい状況をつくる。 身体ほぐしをして血行の促進を図り、手指等の上肢を自分で動かしやすいように促す。 感覚を刺激した活動を通して、言葉掛けをしながら、様々な表出を引き出すようにする。 	1-(1)健康の保持 生活のリズムや生活習慣の形成に関すること 1-(4)健康の保持 健康状態の維持・改善に関すること 5-(1)身体の動き 姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること 6-(1)コミュニケーション コミュニケーションの基礎的能力に関すること
	<ul style="list-style-type: none"> 体幹をしっかり保持した姿勢で活動に取り組むことで、手や指を動かすことができる。 活動を通して、一緒に取り組んでいる教師に気付き、見ることができる。 	V-4 : 基本的な身体機能 I-4 : 人とのかかわり		
C	<ul style="list-style-type: none"> 体幹をしっかり保持した姿勢で活動に取り組むことで、手や指を動かすことができる。 活動を通して、一緒に取り組んでいる教師に気付き、見ることができる。 	V-4 : 基本的な身体機能 I-4 : 人とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> 座位保持車いすに乗るときには、覚せいを促し目覚めた状態で活動を始めるようにする。 教師と一緒に手指を動かすことから始め、徐々に物に対して自由に手を動かすように促す。 手から伝わる感触や手指の動きに対して言葉を掛け、様々な表情を引き出すようにする。 	1-(1)生活のリズムや生活習慣の形成に関すること 3-(1)他者とのかかわりの基礎に関すること、5-(1)姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること 6-(1)コミュニケーションの基礎能力に関すること

(2) 指導に当たって

・ 生徒Aについて

座位保持車いすに乗る前に、痰の状態等の健康状態を把握して、座位の状態が活動できるかを判断する。車いす上での活動が、体幹を保持できている状態なので、健康状態が良いときは、活動する時間を確保できるようにする。また、他の生徒より活動回数が少ないので、不快のサインで手を動かす可能性が高い。活動を受け入れられるように言葉掛けをしていきたい。

・ 生徒Bについて

これまでの活動で3人の生徒の中では、活動回数も一番多く、覚せいして活動ができており、様々な反応を見せてきた。感覚刺激の反応で手指が動くごとに意味付けの言葉掛けを行うことで、反応にパターンが見られるようになった。今後は、教師の指示で、本生徒の反応や手指の動きを引き出していきたい。

・ 生徒Cについて

円背のため前傾姿勢になりやすく、午後から覚せいすることが多いため、体幹をまっすぐに保持できる立位台での活動を行う時間を作り、覚せいしての活動につなげていきたい。また、周りの活動している状況を感じ取り、「見る」(認識する)という行為を促したい。教師と一緒に活動することを受け入れ、小さくても指の動きを引き出したい。

(3) 実際 (生徒の体調やその日の状態によって、活動の流れや内容が変わることがあります。)

過程	主な活動	個々の活動の流れ			指導上の留意点
		A	B	C	
導入	1 活動の準備をする。 (1) 活動の始まりを意識する。 (教室の移動、音楽、香り等) (2) 上肢中心の体ほぐしを行い、活動の準備をする。	・肩、指のマッサージ。 ↓ 9:35~ ・車いす上での水分注入。 ※水分注入時の体調や覚せい状況を観察。	・活動する教室へ移動。 ・場に慣れながら体ほぐし。楽な姿勢の長座で行う。	・全身の体ほぐし。 ↓ 9:35~ ・車いす上での水分注入。 ※水分注入時の体調や覚せい状況を観察。	○ 授業の始まりが意識できるように個別に支援する。
展開	2 紙すきの活動を行う。 【感覚刺激活動】 (1) 水やお湯の感触を感じる。 (2) 入浴剤の香りを楽しむ。 (3) 湿ったペーパーボールを握る。 (4) 液体につけて溶けていく感触を感じる。 (5) 紙が溶けた感触を感じる。 (6) 紙以外の感触(ぬるぬる感等)を感じる。 【手指の動きを拡大する活動】 (7) ペーパーボールを液体の中で溶かすために手を動かす。 (教師の動きを受け入れる、自ら動かす) (8) 紙すきの成型をする。	(1)~(5)の活動を中心に行う。(6)は咳、痰の状態を確認した上で行う。(7)は活動の状況を見て言葉掛けする。 ※覚せいレベルが低いときでも、座位保持車いすに座り、教師が手を添え活動を行う。 ※咳込みや痰の状態を見ながら20分の活動を行う。	(1)~(6)の活動を生徒の体調を確認しながら行う。 ※体ほぐしで緩んだ状態で活動に入れるように、時間差で活動を開始する。 ※座位保持車いすでの活動時間は15分が目標にし、状況を見て5分程度延長する。	(1)~(6)を順を追って適宜行い、(8)まで活動する。 ※覚せいレベルが低いときでも、座位保持車いすで15分程度活動後、立位台に移動し15分程度活動する。 ※活動後も続けて車いすに乗ったまま活動の雰囲気を感じられる場所に参加する。	○ 感触や香り、形状の変化に際し、十分な言葉掛けを行う。 ○ 小さな反応を見逃さないように心掛け、生徒の様子を見ながら活動を進めていく。 ○ 個々の反応について、その都度言葉を掛け、意味付けをする。担当以外の教師も言葉掛けを行う。
		要配慮事項			
		※発作のときは隣室で休養する。	※覚せいしていないときや発作のとき、健康状態を確認し活動への参加を検討する。	※発作のときは隣室で休養する。	
終末	3 活動の終わりを意識する。 ・手の保温	・ ペットボトルやジェルカイロ等を使い、手を温め保温する。			○ 終わりが意識できるよう個別に支援する。
		活動の進行状況によっては「今日の振り返り」の発表を行う。			

(4) 評価

(1)の目標が達成できたか、また、達成しようとしている途中かを見極める。